



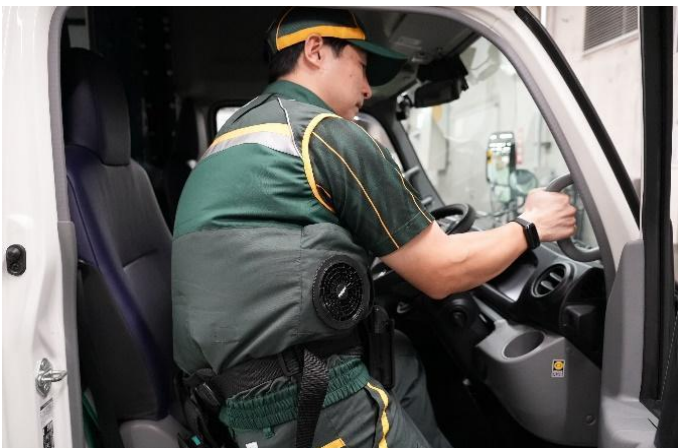
NEWS RELEASE

2025 年 5 月 27 日

ヤマト運輸株式会社

熱中症対策として「ファン付きベスト」の導入を拡大 全事業所に WBGT 測定器を設置、一部エリアで熱中症リスクを感知する 「ウェアラブルデバイス」の実証を開始

ヤマト運輸株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：阿波 誠一、以下：ヤマト運輸）は、従業員が安全・安心して働くことができる環境の整備を目的に、熱中症対策の一環として、2025 年 6 月から「ファン付きベスト」の導入を拡大します。また、全国の事業所に WBGT（暑さ指数）を測定する機器を設置し、熱中症リスクを感知する「ウェアラブルデバイス」の実証を一部エリアで開始するなど、熱中症対策をさらに強化します。



■ ファン付きベスト

2021 年から台車や自転車で集配業務を行うセールスドライバーを対象に約 6,500 着を貸与し、熱中症対策としての効果を検証してきました。今回トラックで集配業務を行うセールスドライバーに新たに貸与するファン付きベストは、運転の妨げとならないよう、ファンの取り付け部分を背面から側面に 7cm ずらした仕様に改良しています。

貸与対象者：トラックで集配業務を行うセールスドライバーと作業職の社員（北海道、秋田県、岩手県、宮城県一部を除く）

導入枚数：約 75,000 着

■ WBGT（暑さ指数）測定器

これまでも環境省が発表する WBGT 値を活用し、各事業所でスポットクーラーや冷風機などの設置や、従業員に対して給水頻度の注意喚起などを行ってきました。これまで一部の事業所に導入してい

た WBGT 測定器を全国の事業所に設置することで、設置場所ごとの作業環境を正確に把握し、いち早く状況に応じた対策をとれる環境をつくれます。

導入先：全国の事業所（営業所、ベース、法人関連オペレーション拠点など）

導入台数：約 3,000 台

■ ウェアラブルデバイス

手首に装着することで体の深部体温の変化が測定され、熱中症のリスクを音・光・バイブレーションで認識できます。無自覚に陥りやすい初期症状を感知し、水分補給や休憩を促すことで、症状の放置や対応の遅れによる熱中症の重症化を防ぎます。今回の実証では、熱中症対策としての有効性を検証するとともに、感知した時間帯や回数、エリアなどのデータを集計することで、今後の熱中症対策に役立てます。

貸与対象者：セールスドライバーと作業職の社員（長崎県、東京都一部）

導入台数：約 2,500 台

■ 導入の背景

近年、記録的な猛暑となる年が増加傾向にあり、熱中症のリスクも増加しています^{※1}。また 2025 年 6 月 1 日（日）から労働安全衛生規則が改正され、職場における熱中症対策が義務化^{※2}されるなど、熱中症対策の重要性が増しています。

ヤマト運輸はこれまでも、熱中症対策に関するガイドライン・マニュアルを作成し、熱中症への注意喚起や、熱中症発生時の報告フローについて周知を図ってきました。また労働環境の把握や従業員へのヒアリングを通じて、冷風機やスポットクーラーの設置、シャーベット状の飲料水や経口補水液の常備など、様々な熱中症対策を行っています。

※1 厚生労働省：令和 6 年 職場における熱中症による死傷災害の発生状況（2025 年 1 月 7 日時点速報値）

URL：<https://www.mhlw.go.jp/content/11303000/001426760.pdf>

※2 厚生労働省：職場における熱中症対策の強化について

URL：<https://www.mhlw.go.jp/content/001476821.pdf>

【お問い合わせ先】

<報道関係の方>

ヤマト運輸株式会社 コーポレートコミュニケーション部 TEL：03-3248-5822

【参考】

環境省：WBGT（暑さ指数）について

URL：<https://www.wbgt.env.go.jp/wbgt.php>

ヤマトホールディングス安全衛生に関する取り組み

URL：<https://www.yamato-hd.co.jp/csr/society/safety/labor/>